

「婦人像」、万国博美術館に出陳

万国博美術館では古今東西の一流の美術品による大規模な美術展が開催されます。この美術館は鉄筋コンクリート4階建、約10,000㎡の広さをもった、創意にみちたもので、今後の美術館建築に大きな影響を及ぼすものと、大いに注目されています。

鑑賞者は正面ロビーからエスカレータで4階に導かれ、そこから順次作品を鑑賞しながら一階に到ります。作品は日本を中心とした東洋美術の歴史的な展開をタテの軸、それに関連する西洋美術の調和、対比、展開、融合の姿をヨコの軸としてもうけた5つの項目、「原始の魂・古代の声」「聖なる造形」「東西の交流」「自由への歩み」「現代の躍動」に分けて展示され、万国博の主要テーマ「人類の進歩と調和」を貴重な文化遺産によってあらわそうとするものです。

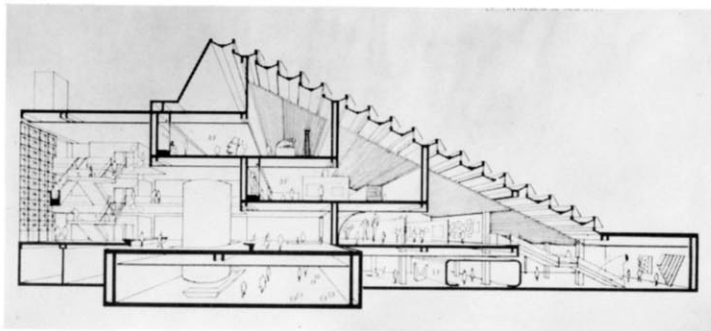


婦人像 紙本著色
桃山時代
54×38.7cm

この婦人像は4月26日から5月16日迄、万国博美術館2階「自由への歩み—人間・自然・社会」の展示場に、日本の女性像の代表作の一つとして世界の女性像と共に陳列されます。

■主な陳列品

書記ネフェル座像（エジプト・第5王朝）
大理石少女像（ギリシア・前6世紀）
トラヤヌス帝像（ローマ・西暦紀元前後）
聖母子（ドイツ・15世紀）
ラファエロ 使徒行伝より（イタリア・16世紀）
チチアン アダムとイヴ（イタリア・16世紀）
ムリリョ 犬をつれた少年（スペイン・17世紀）
クールベ 女とおおむ（フランス・19世紀）
セザンヌ ギヤスケ氏肖像（フランス・19世紀）
アンリ・ルソー 自画像（フランス・1890年）
ピカソ 三人の楽師（スペイン・1921）
ダリ 市民戦争の予感（スペイン・1936年）
銀製六葉文皿（ペルシア・5～6世紀）
彩色舍利容器（中央アジア・4～6世紀）
石造仏伝浮彫（ガンダーラ・2～3世紀）
石造ヴィシュヌ神像（インド・5世紀）
徽宗皇帝 搗練図（中国・北宋時代）
銅製鍍金弥勒菩薩像（朝鮮・6～7世紀）
神護寺蔵釈迦如来像（日本・平安時代）
東博蔵狩野長信 花下遊楽図（日本・桃山時代）



季刊 美のたより No.13

昭和45年 3月1日

発行 大和文華館